

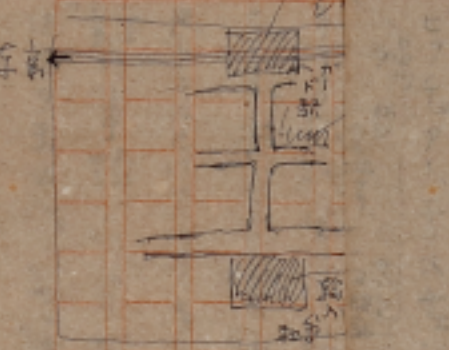
水のこと待魚沙汰いたしました。伊健昌様とおつとめ  
の由、おまを申し上げます。時と、雑誌でお作をおん  
りして、雑誌の雑誌あつかいにお願ひいたします。

1. 過日、新海こよみうり組同業部会が催  
され、秋元不死田氏が選考者として来られ、私も同地の知  
友から家内でもその同業に出かけ、秋元氏にお会合のし  
した。その時、本月末、五月五日先生の忌日は、旧  
同人を連集めて会合を催したいとお話で、まあと  
秋元さんとの間に、お会合がすめられていること、御  
、とてお続種のことには存じました。

2. さいしんは感じをりまして、五月五日先生ご心を  
に、秋元さまを新にされと、新念、秋元さんにお会合の  
まじることから、私、老平の心から、古原氏がはる

3. 感傷から、古原氏に、主張、議命は議命でよく、そ  
れを越えて、文芸子、友中、日中やめめには、旧よを回復め  
うむははいかと、とす、めたはたすです。

4. ところで、出来れば、この機会にはあせ、秋元さん、古原  
さんとの間で手紙を交換され、青島先生の手紙の相  
まされるようにあつたら、とんあによいことかと古原氏ま

5. 
  
まして、古原氏は、右のようお立忘時の  
手紙おしましたこと、お知らせいた  
します。  
ととろで、和個人としてお認め  
し上げおられはあらいことがござ

6. 本心を御たくと存じます。この事し御話お願ひいた  
します。秋元さんにも、右のこと申し上げて、御話お願ひいた  
比、白馬馬集りのこと、御話お願ひいたします。  
五月十五日  
秋元 佐  
白田 洋一 様

五月十五日

神太町の梶足柄下郡  
真鶴町丁塚山一八九六  
秋庭 俊彦